

政府の観光政策にもかかわるデービッド・アトキンソン小西美術工芸社社長に課題を聞いた。発言の概要は以下の通り。

日本は気候、自然、文化、食事という観光立国に必要な4つの条件を満たしている珍しい国だ。私の分析では2020年に訪日客を5600万人まで増やす潜在力がある。眠っている観光資源を生かすべきだ。

次の課題は上客の取り込みだ。訪日客のうちアジアが85%ほどを占めている。世界的に近隣から6割、遠方から4割ほど来るのが一般的だ。4千万人の目標に照らすと、

遠い国の上客 重要

「新・観光立国論」著者・アトキンソン氏



デービッド・アトキンソン氏 65年、英国生まれ。90年に来日し、銀行アナリストとして活躍。09年に国宝修復などを手掛ける小西美術工芸社に入社し、現在社長。政府の会議などで観光や文化政策を提言するほか、「新・観光立国論」などの著書もある。

遠方からの観光客をとる。

1200万人ほど増やす 先進国では現地通貨を必要がある。 持たずに旅行する人が増えている。レストランを

日本のホテルは安い価格のものが多く、多くの文化財はちょっと見て帰るような人を想定している。一定の投資をして高

級ホテルや長期滞在に対応できる施設を増やす必要がある。観光の基本は

多様性。ビーチ、スキー、文化、山登り、川下り、自然などの観光資源が積み重なって政府が目標とする4千万人が実現す

る。日本は飲食店のネット予約サービス「オープンテーブル」に対応している店が少なく、いまだにクレジットカードが使えない私鉄の券売機がある。改善の余地は大きい。